ランチェスター協会　レポート　第 5 号

第 226 回 戦略研究会　報告

2017 年 1 月 17 日 ランチェスターホール（協会常設会場）

発行
特定非営利活動法人
ランチェスター協会
編集責任者
特定非営利活動法人
ランチェスター協会
インストラクター委員会

～講演～

「日本の歩んだ道、これから歩む道」

講師：矢野弾　協会 特別顧問／矢野経済研究所 特別顧問

当会設立を提唱され、中心となって立ち上げ、長く副理事長を務めていただきました矢野弾先生は、「調査能力をもって日本の産業に参画する」との理念のもと、1958 年にお兄様らと矢野経済研究所を設立され、副社長、副会長を務められます。日本の市場調査機関のパイオニアです。その後、月刊誌カレントの発行を引き継がれます。同誌は大蔵大臣などを歴任された賀屋興宣氏が 1964 年に「正しい世論を喚起する」ことを目的に創刊したオピニオン誌です。矢野弾先生は、市場調査機関の経営を経て、言論人となられました。国を思う志に、経済の数値の確かな裏付けを兼ね備えた方なのです。毎年、年初の研究会は矢野弾先生にご講話いただいております。今回も、歴史観・時代観、世界観、大局観、心理観の視点で、お話いただきました。報告者がとりわけ感じ入ったことを以下に記します。

◇戦後 72 年目を迎え、憂慮されるのは「水平カジュアル個々バラバラ欲望社会」となったことである。「目的志向」の「唯物主義」や、「売ってよし、買ってよし、自分よし」といったことではいけない。「売ってよし、買ってよし、世間よし」の近江商人の思想、「勤勉、善意、調和」の農耕民族の良さで、「志志向」の「唯心主義」を取り戻す必要がある。

◇その一つが「歴史に学べ、迷ったら原理原則に立ち返れ」である。リンカーンは南北戦争のさなか、ゲティスバーグで演説をする。勝ち負けや、敵を批判するような内容ではなかった。「人民の、人民による、人民のための政治は、地上から決して滅びない」。言葉の威力がこれほど発揮された例は少ない。情報化社会のいま、「言葉は命なり、言葉は力なり、言葉は未来なり」である。

◇「洞察力、嗅覚力、自己主張」で相手と対立するのではなく、360 度で考え、「点・線・面・球」と物事を展開する「円周思考」が求められる。オバマ大統領が広島を、安倍総理が真珠湾を訪れたことが好例である。企業は分母に社会を置いて、分子に利益を求めなければならない。

◇日本には会社が 262 万社あるが、黒字は 80 万 3 千社しかない。昨年よりは増えてはいるが、まだまだだ。個人消費が横ばいを続けていることの影響が大きい。物が充足している。背広の上に背広は着られない。うまず、たゆまず、くじけず、考えよう。皇居の乾通りを公開したら、花見客が何十万人とやってきた。過剰のなかにも不足はある。

◇福沢諭吉は「立国とは公にあらず、私なり」と言った。論理を極め、心理を極め、実践を極めることで「心を感性と存在感の時代」である 21 世紀のいま、「ヒューマン資本主義」を推進していこう。以上。

報告者：福永雅文（協会常務理事　研修部長）

～ＡＢＣ分析で営業活動の最適化～
平金産業株式会社（静岡県）
ランチェスター戦略実践報告

ご講話の後、「ランチェスター戦略の実践事例報告」がなされました。今回は静岡県でマグロやカツオの人が食べない部分を飼料や肥料などに加工する平金産業株式会社の桐谷征宏氏（第 45 期専門研究コース修了）より、ランチェスター式 ABC 分析の応用事例が報告されました。ABC 分析は顧客の戦略的格付けと売上・シェアアップのターゲティングに使いますが、同社の事業では原料の確保が重要成功要因のため、仕入先であるマグロやカツオの加工工場の ABC 分析をし、仕入先への営業活動の最適化に取り組んだ旨が報告されました。